広報市民リポーターだより
第4回

良質米生産基地 カントリーエレベーター

リポーター 虻川博司（櫃崎）

今年も実りの秋を迎え、黄金色の稲穂が収穫の喜びを教えてくれます。例年になく暑い日が続いたことや、水不足の影響などで、今年の作柄はかならずしも良いとは言えませんが、昨年の冷害ほどではないようです。

農業を取り巻く情勢は、米の輸入自由化問題に始まり、食管制度の見直し、米価の引き下げ、減反の強化と、近年の天候と同様に不安定で厳しいものとなっていますが、こうした中、今春から稲刈り直前の先月末まで、カントリーエレベーターの改修工事が行われ、完成したそうなので訪ねてみました。

責任は重大

このカントリーエレベーターは、今から十七年前、昭和四十七年に建設されました。今回の改修工事は、機械の老朽化に伴う米の品質劣化防止、荷受けの際の混雑解消が目的で、約三億円が投じられているそうです。

荷受け、乾燥、貯蔵、籾摺、調整出荷といった稲刈り後の農作業を、農家に替ってやってくれるのがカントリーエレベーターです。農家の収入を左右するともいえる最終段階を代行するわけですから、設備はもちろん職員の皆さんの責任も重大です。

稲刈り時期は限られるため、荷受け作業も一時期に集中し、稲刈り最盛期の土曜、日曜には夜の十時過ぎまで続くことがあるそうです。また、荷受けした籾を乾燥させる時には、二十四時間態勢で作業にあたるとのことでした。

今回の改修工事でこうした作業形態はどう変わり、米の流通等においてはどのような利点が生まれるのかを具体的に聞いてみました。

カントリーエレベーター

こんな利点が

まず施設の方ですが、前に述べた荷受け時の混雑解消のため、受け口を一系列から二系列にしました。これで荷受け作業はよりスムーズに進み、荷受け期間を短縮できるとのこと。事故米の未然防止にもつながり、作業効率の向上と省力化によってコストの低減も図れるということです。また、乾燥機も二基となり、乾燥能力は二倍にアップ。安全かつ迅速な乾燥調整ができるとともに、適正乾燥籾の保管が容易になるそうです。

カントリーエレベーターの利用利点としては、第一に米の流通市場の変化に伴い、バラ出荷のニーズにこたえることによって有利な販売ができること、消費者の良質米嗜好で、今摺米の評価、共同販売の市場評価いずれも高く、有利な販売を計ることができることだそうです。第二には、集団、共同による機械利用、共同作業により計画出荷ができ、省力化、合理化で低コスト生産が図れるということ。利用料金は農作業標準賃金と比較して、六十キログラム当たり六百三十円ほど安く、経費節減となります。三つ目は、飯米委託者には毎月必要量に応じて配達するため、新米同様の食味を提供できることです。今年は、秋田県の主力品種である〝あきたこまち〟とキヨニシキの二品種を取り扱い、全量自主流通米として全国へ出荷する予定とのことでした。

良質米をより多く

カントリーエレベーターについて色々リポートしてみましたが、今、米を含めて食べ物に対する価値観は急速に変わりつつあると思います。これは農業復活の一助にもなると考えますが、そのためには農民自身が、食べ物に対する価値観を問い直すことが一番大事だと思います。命と直接に関係する食べ物を作っている農民が、安全を保障できる物を作らなければ、消費者からソッポを向かれるのは間違いありません。米に限って言えば、これまでの流通過程は生産者、消費者のどちらも見ることができず、その間に品種の「すり替え」「増量」などが常識的に行われ、それが流通業者を肥やし、生産者、消費者は互いに不信感を増大させてきたと思います。

こうしたことからも、カントリーエレベーターの役割は、今後ますます重要になっていくと考えられます。安全な良質米をより多くの消費者へ届けてくれることを期待します。

カントリーエレベーターの工藤主任(右)と虻川リポーター

◇広報市民リポーターだよりは、毎月1日号で、6人のリポーターが独自に取材した記事を掲載しています。